

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between house renovation during pregnancy and wheezing in the first year of life: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠中の自宅の増改築と生まれた子どもの生後1歳までの
喘鳴・反復性喘鳴の発症頻度との関連

ユニットセンター(UC)等名: 兵庫ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Allergology International

年: 2021 DOI:

10.1016/j.alit.2021.05.003

筆頭著者名: 藤野 哲朗

所属UC名: 兵庫ユニットセンター

目的:

乳児期喘鳴、喘息の原因としてウイルス感染、受動喫煙、ダニなどの環境要因が発症リスクと関連していることがこれまでに報告されている。しかし、妊娠中の環境因子と生まれた子どもの喘息、喘鳴の関係については不明な点が多い。我々は、妊娠中の自宅の新築・増改築と生まれた子どもの喘鳴との関連について検討した。

方法:

エコチル調査に登録され、質問票に有効な回答があった75,731名に対して、妊娠中に新築・増改築を行った妊婦から生まれた子どもの生後1歳での喘鳴と反復性喘鳴の関連についてロジスティック回帰分析により検討した。また、これまでに子どもの喘鳴、喘息のリスク因子として知られている、妊婦のアレルギー疾患の既往、生まれた子どもの呼吸器感染症の既往の有無で層別化し、追加で解析を行った。

結果:

妊娠中に自宅の増改築をした妊婦から生まれた子どもは、しなかった妊婦から生まれた子どもと比べて生後1歳までの喘鳴の頻度が1.33倍、反復性喘鳴の頻度が1.22倍であった。一方、妊娠中に自宅を新築した妊婦から生まれた子どもでは、1歳までの喘鳴と反復性喘鳴の発症頻度の上昇はみられなかった。妊婦のアレルギー疾患の既往及び生まれた子どもの呼吸器感染症の既往の有無で層別化した解析のいずれにおいても、それぞれの既往の有無に関わらず、妊娠中に増改築を行った妊婦から生まれた子どもは1歳での喘鳴のリスクが高かった。

考察:(研究の限界を含める)

今回の検討の結果から、妊娠中に増改築した妊婦から生まれた子どもは、そうでない妊婦から生まれた子どもと比較して、1歳までの喘鳴と反復性喘鳴の頻度が高いことが観察された。本研究の限界としては、増改築や喘鳴の有無は質問票への回答によって評価したものであり、増改築の種類や程度、喘鳴の重症度は明らかでないこと、また妊娠中の増改築と生まれた子どもの乳児期の喘鳴との機序が不明であることなどがあげられる。今後は、子どもの1歳以降の喘息との関連についても検討することで、妊娠中に増改築を行うことが生まれた子どもの乳児期の喘鳴だけでなく喘息の発症にも関係するのかを明らかにする必要があると考えている。

結論:

妊娠中に自宅の増改築を行った妊婦から生まれた子どもでは、1歳までの喘鳴と反復性喘鳴の発症頻度の上昇が認められた。また、層別解析からは妊婦のアレルギー疾患の既往や子どもの呼吸器感染症の既往という、これまでに知られている喘鳴のリスク因子の有無にかかわらず喘鳴の頻度が高くなっていた。